



愛知工業大学
愛知工業大学情報電子専門学校
愛知工業大学名電高等学校
愛知工業大学名電中学校

目次:

牛嶋氏に後藤鉦二賞	2
学園表彰	2
理事長の年頭挨拶	3
設置校で入試	4
企業展開催	5
全国優勝祝う	6
吹奏楽部演奏会	7
ロボット交流会	8

発行所
名古屋電気学園
〒470-0392
豊田市八草町八千草1247
TEL (0565) 48-8177

学園各設置校の卒業式は、三月一日の愛工大名電高校、十五日の愛工大名電中学校、十九日の愛工大情報電子専門学校、二十三日の愛知工業大学と、順次行われました。卒業生たちは、後藤泰之理事長や各設置校の校長、在校生からはなむけの言葉を胸に刻んで、新たな生活へと巣立っていきました。

大学 一三九六人に卒業証書・学位記授与

大学の卒業証書・学位記授与式は八草キャンパス鉦徳館で行われ、合わせて一三九六人に後藤泰之学長から授与されました。



謝辞を述べる宮本侑季さん

されたのに続き、修士の学位記が工学研究科修士七一人と経営情報科学研究科修士三四人の各総代に、学部生に対する卒業証書・学位記は工学部九二七人、経営学部一六〇人、情報科学部一九九人の各総代に授与されました。

後藤学長は、式辞で本学の建学の精神「自由、愛、正義」と教育のモットー「創造と人間性」に触れ「新しい時代の担い手となるため、その意味をもう一度考えていただき、社会の発展に積極的に寄与されることを期待しています」と呼び掛けました。

これを受け、卒業生代表の宮本侑季さんが「自身の

より一層の向上に努め、愛知工業大学卒業生としての自覚と自信を持ち、社会に貢献いたします」と謝辞を述べました。土曜日とあつて、会場の二階席をたくさんの保護者らが埋めて式を見守りました。

高校は六〇七人が卒業

名電高校の卒業証書授与式は三月一日、高校喬徳館で行われ、科学技術科一二七人、情報科学科三四人、普通科四四六人の合わせて六〇七人が学び舎を巣立ちました。国歌斉唱の後、各科・コースの代表に岩間博校長から卒業証書が手渡されました。

岩間校長は式辞の中で「人はみな誰もが出来上がりつつある存在」とし、「出会いの中に成長の手掛かりがあることを忘れず、互いに協力し合い、今自分にできることをひとつひとつ積み上げていってください」と呼び掛けました。後藤泰之理事長も「本校のよき伝



「三年間の学びを通して、学ぶとは心に優しさを刻むことだと気づきました」と語りました。

名電中学として最初の卒業式は、名電中学校の卒業証書授与式は淳和記念館で開かれ、一〇五人が卒業しました。卒業生を代表して浅野元汰君が岩間博校長から卒業証書を受けました。岩間校長は、まもなく高校生活を始める卒業生に「大切なのは、あきらめることなく挑戦と失敗を繰り返すこと」と式辞で語りかけ、後藤泰之理事長も挨拶で「可能性を信じ、勇気と自信を持って勉学に励んでくださ

統を受け継ぎ、勇気と自信を持ってすばらしい人生を歩んでください」と、卒業生を励ましました。

これを受け、卒業生を代表して普通科の加藤祭さんが答辞を述べました。写真⑤。ダンス同好会に所属した加藤さんは「ひたむきに努力する仲間の姿が自分を奮い立たせてくれた」と振り返り



「できなかつたことの一つでも多く挑戦していきます」と答辞を述べました。写真⑥。



専門学校の卒業証書授与式は同校四階大教室で行われ、一〇五人が卒業しました。代表の山本時正さんに飯吉僚校長から卒業証書が手渡されました。飯吉校長は「本校で学んだ技術や知識を生かし、社会の発展に貢献を」と式辞を述べ、後藤泰之理事長も「志を高く持ち素晴らしい人生を歩んでください」とはなむけの言葉を贈りました。卒業生を代表し、近藤大貴さんが「何事にもアグレッシブに取り組み、社会に貢献していきます」と謝辞を述べました。写真⑦。

後藤鉀二賞を牛嶋教雄氏に授与

後藤鉀二先生奨学記念会（会長・後藤泰之理事長）は、本年度の後藤鉀二賞を名古屋電気学園前理事の牛嶋教雄氏（川北電気工業代表取締役相談役）に授与しました。学園の発展に対する顕著な功績者に贈られる後藤鉀二賞は昭和四十九年度に始まり、牛嶋氏は九十一人目の受賞者です。



牛嶋氏と後藤会長を囲んで記念撮影する関係の皆さん

織である「名古屋電気学園愛名会」、学園各設置校のクラブ活動に支援をいただき「名古屋電気学園クラブ活動後援会」に対しても、それぞれの会の発起人の一人として、会の設立から現在に至るまで多大なご協力をいただき、本学園の発展に寄与されました。

授与式は一月二十二日、若水キャンパスの会議室で行われました。午前十一時三十分、全員で後藤鉀二先生のご遺影に黙祷を捧げた後、後藤泰之会長は牛嶋氏の功績を振り返って「財務系を中心に公正な立場で大学の発展に寄与され、特に学園とクラブ活動の後援組

牛嶋氏は平成十四年三月から二十六年三月まで、学園監事として常に公平不偏の立場から、財務に関する適切な助言をされました。その後も三十年三月九日まで、財界でご多忙の中にもかかわらず、学園理事として理事会や学園行事に出席され、卓越した識見で学園運営にご尽力いただきました。また、本学園の後援組



謝辞を述べる牛嶋氏

織の立ち上げ時からお力をいただきました」と感謝の言葉を述べ、賞状と賞牌などの記念品を贈りました。

牛嶋氏は、学園創立時からの学園と川北電気工業（前身企業）の縁に触れ「学校を出てすぐ、父に言われて後藤鉀二先生のもとへご挨拶にお邪魔して以来、ずっとかわいがっていただきました。個人的にも大変ありがたい賞をいただき、誠にありがとうございます。ありがとうございました」と謝辞を述べました。

学園や設置校の幹部を交えた記念写真の撮影に続いて、会食をして和やかに歓談しました。

あいわ幼稚園卒園式

姉妹学園・あいわ幼稚園（名古屋市中東区）の第五十三回卒園式は三月十六日に開かれました。卒園の子どもたちは八十六人で、式では一人ひとりが名前を呼ばれ、後藤泰之園長から修了証書を受け取りました。子どもたちは後藤園長から「あいわ幼稚園で学んだことを忘れずに自信を持って小学校に行ってください」と励まされ、思い出を胸に園舎を巣立ちました。

学園表彰・高校の吹奏楽部とフェンシング部

学園は、全国大会でトップの成績を収めた高校の吹奏楽部とフェンシング部を学園表彰しました。愛名会もお祝いを贈りました。



3月1日の表彰・吹奏楽部

吹奏楽部は、三年の大澤萌さん、山田璃子さん、高橋希美さん、佐藤杏さん、大野瑞歩さん、山田里奈さん、高尾咲穂さんが、昨年三月に神奈川県須賀芸術劇場で開かれた第四十一回全日本アンサンブルコンテストに出場し、金管八重奏「第12旋法によるカンツォン」で金賞に輝きました。

表彰は三月一日の卒業式前に校長室で行われ、後藤泰之理事長が八人と伊藤宏樹顧問、鈴木裕子顧問に賞状などを手渡しました。後藤理事長は「三年間の思い出を大切に、新しい場所でも精進してください」と語りかけ、部員を代表して大野さんが「さまざまな協

力があったおかげ」と感謝を述べました。伊藤顧問は「こつこつやれば金賞が取れる」と示し、部のステップアップのきっかけを作ってくれた」と教え子たちの頑張りを称えました。



3月15日の表彰・フェンシング部

フェンシング部は、三年の尾矢陽太選手が一月のJOCジュニアオリンピックカップ・男子サーブルで優勝。この結果を受け二、三月のアジアジュニアフェンシング選手権に日本代表として出場し、団体戦銀メダルを獲得しました。

三月十五日の表彰で、尾矢選手と富田弘樹監督、川嶋範夫部長に賞状などが手渡されました。併せて、尾矢選手の保護者に海外遠征費補助が交付され、アジア大会で卒業式に出られなかった尾矢選手のため卒業式が行われました。尾矢選手は「名電卒業生の名に恥じないよう頑張ります」と力強く抱負を述べました。

後藤理事長が年頭の挨拶

平成三十一年の仕事始めにあたり、後藤泰之理事長は一月五日に若水キャンパス、同七日に八草キャンパスで年頭の挨拶をしました。大学開学六十周年の節目の年に当たって「本学の強みをさらに世間に打ち出していききたい」と述べ、あらためて教職員の結束を呼び掛けました。

挨拶要旨

■八草キャンパス

いよいよ大学の外部評価を受ける年となり、十月二十三日から実地検査が入りますので、しっかりと対応を取ってほしいと思います。また、大学の授業料減免という話が進んでいません。対象校にならないと在籍する学生に対する減免措置ができませんので、初年度で対象校となるよう準備をしていただきたい。開学六十周年の節目ということで、財政基盤を中心とした大学の中期計画を検討しており、それも外部評価の対象の一つになってきます。



度には落ち込み、単純に考えると三分の一の大学がなくなっているかもしれない。

大事なものは、私立大学が学生の八割を受け入れ、多様な人材を送り出して国の基盤をしっかりと支えているということですが、そのブランドデザインが国公立中心のものになっているので、私学を忘れてもらっては困るということを強く国の方に言っていかなければいけないと思っています。そういった状況の中、やはり本学の強み、特色をもっと明確に打ち出していかなければなりません。そこ

を踏まえて教育の質や教学のマネジメントをしっかりとしたものにし、地域に貢献していくことが大事だと思います。わが国のものでくわりの集積地にあるという地の利をもっと生かしていくとともに、強みをアピールし、この地域に愛工大は必要なんだと言われるようになっていかなければいけないと思っています。

■若水キャンパス

昨年、中学・高校が名電という名のもとに一つになりました。一体感を持っていろいろな取り組みをしていただければと思います。

これから入試が始まってまいります。少子化の影響を真っ先に受けるのが中学です。名古屋市は減り方がしばらくはゆっくりという状況ですから、しっかりと今のうちに安定した受験体制を整えていかななくてはいいと思います。

入り口の入試に対し、出口の受験に関しては、今年は非常に厳しいのではないかと思います。特に関東、関西、そして愛知にある大学は、入学の定員が厳密にしばられており、各大学は合格者数の判断を慎重に進

めています。

こうした厳しい状況の中、愛工大名電の独自性魅力をもっと明確に打ち出すことが大事です。名電の魅力は何かというと、さまざまなクラブ、課外活動が活発であること、生徒たちがやりたいと思うことを、できるだけかなえてやれる環境があることが、その一つです。「名電は楽しそうだ」「名電に来てよかった」と思ってもらうことが大切です。高校の三年生には残すところわずかですが「名電を卒業できてよかった」と思われるよう、しっかりと先生方が面倒を見てあげてほしいと思います。

■専門学校

専門学校でも一月八日に飯吉僚校長が、後藤理事長の言葉を伝える形で年頭の挨拶をし「今後も豊田市や地元企業に必要とされるよう、地域連携のためのアイデアを出し合っていたきたい」と呼び掛けました。



挨拶する飯吉校長

後藤すゞ子先生奨学金 学園が制定する「後藤すゞ子先生奨学金」が、昨年十二月に三件交付されました。十二月十一日に工学部の学生に、十二日と十五日に名電高校生に、それぞれ交付されました。

奨学金は元学園長の後藤すゞ子先生の遺志に基づいて設けられ、親の死去など思いがけない理由で学資の負担が難しくなった設置校の学生、生徒が学業を継続できるように支援するものです。



12月11日の交付
標を達成できるように頑張ってください。と励ましの言葉をかけました。



12月12日の交付



12月15日の交付

設置校で入試

大学、高校、中学の各設置校では、一月下旬から二月上旬にかけて入学試験が本番を迎えました。

大学

大学入試の前期日程はA方式(記述式)が一月二十七、二十八日、M方式(マークセンス式)が同二十九日の三日連続で行われました。



問題の配布を受ける受験生たち

試験は八草キャンパス、自由ヶ丘キャンパスのほか、豊橋、一宮、岐阜、四日市、津、浜松、静岡、富山、金沢、松本、岡山、福岡の十二地方会場で行われました。八草キャンパスでは早朝から訪れた受験生たちが、それぞれに割り当てられた十号館、一号館の教室に入室していき、ピンと張りつめた空気の中で試験

問題に取り組みました。三学部七学科十四専攻の募集人員五九八人にに対し、志願者数は五八八一人でした。三日間の試験中はトラブルもなく、平穩に日程を終了しました。

高校

名電高校の一般入試は二月六日に行われました。志願者数は普通科が三五八人の募集に対し三二九六人で倍率は九・二倍、科学技術科・情報科学科は二〇〇人の募集に対し四四〇人で倍率は二・二倍



若水キャンパスで



自由ヶ丘キャンパスで

でした。高校の受験では受験環境の均等化をはかるため、平成二十九年から大学の施設

も使用して入試を実施しています。試験は若水キャンパスで午前八時半から、自由ヶ丘キャンパスと八草キャンパスでは午前八時五十分から行われました。

中学

名電中学の入学試験は一月十九日に奨学生A・B入試、二十日に第一回一般入試の日程で行われました。合わせて一〇五人の定員に対し受験者数は七五五人で、倍率は七・二倍でした。



試験前の緊張のひとつ

午前八時の気温が二度と冷え込んだ十九日と小雨交じり天候となった二十日とも、受験する児童たちが保護者と訪れ、出迎いの進学塾関係者から励ましの声を掛けられていました。児童たちは各教室で担当教諭の説明を受けた後、午前八時三十分から国語、算数、社会、理科の四教科の筆記試験に真剣な表情で取り組みました。

高校専門学科三年生が課題研究の成果を発表

名電高校専門学科の三年生が昨年十二月十五日、グループで取り組んできた課題研究の成果を八草キャンパスで発表しました。多様な研究内容を大学の教員に専門的に審査・指導してもらった高大接続事業で、情報科学科、科学技術科の生徒合わせて百六十一人が参加しました。

各学科の審査を経て優秀と評価された六グループによる全体発表会は一月十日に高校喬徳館で専門学科全員の前行われ、岩間博校長が「仲間と発想をぶつけ合う体験が皆さんの力になる」と講評しました。



喬徳館で行われた全体発表会



大学教員の質問を受ける生徒たち

生徒たちが自主的に設定した研究テーマは三十六に上り、バラエティーに富んだ内容。電気、応用化学、機械、土木工学、建築、情報科学の六学科に分かれ、グループごとに五十分程度の持ち時間で発表しました。審査に当たった教員から実験の意図などについて質問が投げかけられ、中に

優秀六グループの発表テーマは次の通りです。「エネルギーマネジメントカーの製作」(電気) ▼「マグネシウム電池の考察」(応用化学) ▼「スターリングエンジンの研究」(機械) ▼「トラス橋の製作」(土木工学) ▼「鶴舞図書館改造計画」(建築) ▼「筋電位センサを使った手話の認識」(情報科学)

過去最多七四六社の熱気 愛名会企業展

来春卒業予定者の就職活動が本格スタート
企業展



学生と企業担当者の熱気に包まれた愛名会企業展

の企業ブースを埋めま

た。
愛名会は平成九年に学園創立八十五周年記念事業の一環として発足し、この企業展を大学と共催しています。前年度、就職した愛工大生一二七人のうち四四四人が愛名会企業の二二五社に入社を決めるなど、本学の高い就職率の基盤になっています。

一般求人企業の企業展も自由ヶ丘キャンパスで三月一日に開かれ、就活解禁日の開催とあつて軽音楽部による壮行演奏が行われました。

就活スケジュールは今年も六月一日が選考活動解禁。準備期間三カ月の短期決戦となります。キャリアセンターでは「就活ルール

の形骸化が進み、早くも選考を開始する企業が多い。売り手市場とされているが選考基準は下がっており、選考過程で『役に立つ』と思われる人しか採用されていない。納得いく就活を実現するためにも、売り手市場に甘んじることなく学

内の就職支援プログラムや企業展をフルに活用してほしい」と呼び掛けています。

交流会・研究会

三月の採用情報公開（エントリー受付開始）を前に、本学キャリアセンターは愛名会との共催による「U・Iターン交流会」と、愛知県産業労働部産業振興課・愛名会との共催による「愛知ブランド企業研究会」を、それぞれ八草キャンパスA ITPラザで開きました。



愛知ブランド企業研究会

二月十二日の「U・Iターン交流会」は、学生たちの出身エリアである岐阜、三重、静岡・東三河などの優良企業が一堂に会する形で、昨年が続く二回目の開催。午前、午後の部に分かれて計七六社が参加し、学生は延べ二三四人が所属学科を示す札をスーツの胸ポケットに差して訪れました。

学生たちは、それぞれの企業の競争力や魅力ある取り組みについて説明を受

け、地元で働くことへの認識を深めました。

翌十三日の「愛知ブランド企業研究会」は、知名度や規模にとらわれない「企業を選択する力」を学生たちに身につけてもらおうとの狙い。三回目の開催となった今年は、午前・午後の部に計九〇社が参加しました。訪れた延べ三二九人の学生たちは、各社のモノづくりに対する強み、技術者育成へのこだわりなど人事採用担当者の生の声に熱心に耳を傾けました。

大学同窓会の瑞若会が主催する業界業種研究会も同会場で二月十四、十五日に開かれ、二日間で全国から計一八〇社の企業が出展しました。四日連続となった就職イベントには学部三年生・大学院一年生だけでなく私服姿の学部一、二年生も訪れ、準備に怠りのない姿勢を見せました。



業界業種研究会

業界・業種を代表する企業計六〇社を迎えての「業界業種研究会」が一月十二日と昨年十二月二十二日の二回にわたって八草キャンパスで開かれました。

メーカー、建設業、商社、金融、情報通信などの各業種について学生たちに理解を深めてもらう狙いがあり、採用活動早期化への対応と学生により多くの業界業種を研究してもらうことを目的に、初めて二回実施に踏み切りました。

参加者全員が企業の説明を確実に把握できるよう、会場は十号館と九号館の各講義室に割り当てられ、学部三年生と院一年生を中心に、一月は延べ五四九人が昨年十二月は延べ四八六人が足を運びました。三月の企業展の前哨戦でもあり、職種などを説明する各企業の人事担当者らに、メモを手

に質問する真剣な姿が見られました。



瑞若会業界業種研究会

吉村・木造両選手の卓球優勝祝賀会

ともに四月の世界選手権ブダペスト大会出場へ

本学男子卓球部の吉村和弘選手（主将四年）と木造勇人選手（一年）が、それぞれ全国大会で優勝を飾りました。名古屋電気学園は三月八日に名古屋ガーデンプレスで祝賀会を開き、関係者約百四十人が出席して快挙をたたえました。



卓球部に期待する声飛び交った祝賀会

吉村選手は、昨年の第十五回全日本学生選抜卓球選手権大会（十一月二十三～二十四日・名古屋市の日本ガイシスポーツプラザ）に出場。決勝で本学の高見真己選手（一年）と対戦し、4-0で下して初優勝しました。吉村選手は本学入学以来、全日本の大会で四度決勝に進みましたが、いずれも敗れ、苦い思いをしました。五度目の正直となる大學生として最後の全日本学生選抜で、見事日本一をものにしました。

出場し、優勝を勝ち取りました。決勝で本学の松山祐季選手（二年）・高見選手組と対戦。スコアは木造・張本組（9-11、11-7、5-11、11-5、16-14）松山・高見組と一歩も退かない接戦になり、最終ゲームで木造・張本組が相手の三度のマッチポイントをしのいで粘り強く勝利を決めました。

吉村選手と木造選手は、ともに四月二十一日に開幕する世界選手権ブダペスト大会への出場が決まっています（吉村選手はシングルスで、木造選手は張本選手と組んでダブルスで）。祝賀会では、後藤泰之理事長が、どちらの大会も本学の選手が優勝と準優勝を分け合ったことを喜び「中・高・大が一体になって力を高めているのが学園の強

み。世界に羽ばたく選手をたくさん育ててほしい」と関係者を激励しました。名古屋電気学園クラブ活動後援会と統合して部活動を支援する愛名会の佐々木眞一会長も、自身と名電卓球の縁などにふれ「頑張る皆さんを支えていきます」と祝辞を述べました。



優勝報告する吉村選手（右）と木造選手

卓球部に対する学園表彰などに続き、吉村・木造選手と森本耕平男子卓球部監督、鬼頭明卓球部総監督が優勝報告しました。吉村選手は「東京オリンピックに向けて、日本人の三番手以内に入ることを目標にしています」と決意表明し、木造選手は成績不振に苦しんだ時期を支えた関係者の皆さんへの感謝を述べました。

米物理学会ポスターセッションで二年連続一位

大学院工学研究科博士前期課程二年の山本圭恭さんが、米国ジョージア州アトランタで昨年十一月に開催された国際会議「第七十一回アメリカ物理学会流体力学部門」で、学生ポスターセッション一位に選ばれました。山本さんは二〇一七年も同部門一位に輝いており、過去に例がないとみられる二年連続受賞に関係者から驚きの声が上がっています。



2年連続1位に輝いた山本さん

「アメリカ物理学会での一位は、野球に例えるならMLBのワールドシリーズで一位というのと同じくらいの価値」と、同席していた世界第一線で活躍する福本康秀先生（元九州大学マッス・フォア・インダストリ研究所長）は話しています。同国際会議は流体力学の研究コミュニティにおける世界最大の集まりの一つであり、今回も米国内外か

ら三千件を超えるエントリーがありました。山本さんは応用数理研究室（機械学科・中山雄行准教授）に所属し、流れを理論的に考察して渦の物理量や定義などを導出、乱流の元である渦の現象の解明に励んでいます。

一位に輝いたポスター発表のテーマは「二様等方性乱流における様々なスケール間の渦における渦伸長と渦強化特性の関係」。気象、海洋、飛行機などで普段見かける流れは乱流であり、これは小さまざまなスケールの渦が発生・発達・消滅する流れです。山本さんは、異なるスケールの渦同士は形を変えながら共に発達・減衰する自他共栄の相互作用があることを、一様等方性乱流という乱流で示しました。山本さんは「世界の著名な先生方から御褒めの言葉を頂き、とてもうれしく思います。世界の研究者のレベルと意識の高さを忘れず、自らの仕事や人生に活かしたいと思います」と喜びを話しています。

春高バレーに二年連続十六回目の出場

高校バレーボール部が、新春に東京・武蔵野の森スポーツプラザで開かれた第七十一回全日本高校バレーボール選手権大会（春高バレー）に、二年連続十六回目となる出場を果たしました。

大会には二回戦から登場し、佐賀県代表・佐賀学園高校との初戦は2-0（25-19 25-12）で勝利しました。続く三回戦で、滋賀県代表の近江高校に1-2（29-31 25-22 21-25）



入場行進する名電の選手たち

で惜敗し、昨年と同じベスト16で大会を終えました。大会を振り返って北川祐介監督は「佐賀学園高校に

は全日本ユースチームのレギュラーセッターを務める選手もおり苦戦が予想されましたが、得意のコンビネーション豊かな攻撃と高さのあるブロックで勝利できました。近江高校戦では残念ながら名電らしい粘り強いバレーを展開できませんでした」と話しており、たくさんの声援に感謝しながら「次の大会から新チームとなります。今後とも全国大会上位を目指して生徒と共に練習に励んでまいります」と誓いました。

◎ 中学二年生対象にプログラミング学習の出前講座 ◎

愛知県教育委員会の「あいちSTEM教育推進事業」の一環として、愛工大名電中学校で一月十五日（十七日、二年生全員を対象にしたプログラミング学習の出前講座が行われました。STEM（科学「技術」「工学」「数学」の英語の各頭文字）四分野の魅力を、企業と連携して小中学生に伝えようという出前講座で、本学高大連携推進室の間瀬好康参事（前・愛知総合工科高校長）と企業担当

高校吹奏楽部第五十四回定期演奏会

学園が主催する高校吹奏楽部の定期演奏会が一月六日、名古屋国際会議場セン



圧巻の演奏を披露した定期演奏会

チュリーホールで昼夜二部にわたって開かれました。五十四回目となった今年は、後藤泰之理事長の挨拶に続き、高校の部全国最多四十一回目の出場を果たした二〇一八年度全日本吹奏楽コンクールの演奏曲目であるコンサート・マーチ「虹色の未来へ」と吹奏楽のための交響曲「ワインダーク・シー」を、全日本の会場と同じステージで心を込めて演奏しました。

プログラムは、伊藤宏樹教諭らの指揮による全四部構成。O・レスピーギ作曲の交響詩「ローマの祭り」より四曲や、昨秋の全日本マーチングコンテストで会場を沸かせたステージ・ドリルなどを披露しました。

第四部は、第五十回記念定期演奏会委嘱作品である「ゴールデン・ジュビレーション」（八木澤教司作曲）や、部員たちがつくり上げたミュージカル「アニー」メドレーなどバラエティーに富んだ内容。会場と一体の合唱を織り込んだ坂本九さんメモリアルメドレーや、吹奏楽の聖地として知られた「普門館」（東京都

杉並区）取り壊し直前にテレビ番組の収録で演奏した「宝島」の演奏などが続き、部のモットー「絆」の美しさを存分に伝えました。



ロボットにプログラムを書き込む生徒たち

同部は昨年三月二十二（二十八日、ウイーンに演奏旅行で渡航し、ニューイヤークンサートで有名な楽友協会ホールで単独演奏会を開催しました。観客のスタンディングオベーションなど大好評の模様を収めたCD「ブラバン！ 名電inウイーン」をソニーミュージックから発売しており、ブラスバンドの魅力を広く伝えていきます。

「私たちの想定を超える応用力を発揮してくれました」と、間瀬参事は生徒たちの発表内容を高く評価。渡辺真教頭は「愛工大名電ならではの環境を生かし、こうした学習を継続できれば」と話しています。

にぎやかにロボット交流会 五十九チームが競う

愛知工業大学、愛工大名電高校、愛工大名電中学、本山口ロボット教室で取り組んでいるロボット教育に理解を深めてもらおうという名古屋電気学園ロボット交流会が二月十六日、学園の淳和記念館（名古屋市千種区若水三丁目）で開かれま



自律型ロボットの競技会

した。

七回目となる今年は、交流会の柱となる自律型ロボット競技会（レスキューコース）に小・中学生、高校生の計五十九チームが参加しました。競技は、被災地に見立てた白色パネル上のコースで行われ、大学電気学科などの学生やボランティアの高校生が審判・副審を務めました。参加者たちは、坂道などの難所を踏破するロボットを真剣に見守り、目標（被災者）に到達するまでの得点を競いました。競技会と併せ、大学で取

り組んでいる数々のロボットの研究成果や高校生のAIITサイエンス大賞エントリー作品を見学するブースツアーも行われ、参加した親子らが、ロボットのダンスパフォーマンスなどを熱心に見て回りました。高校専門学科一年生によるロボットデザインコンテストも開かれました。



人気を集めたブースツアー

後藤杯卓球 全国から参加の一四五五人が競う

第四十八回後藤杯卓球選手権大会《名古屋オープン》が一月五、六日、名古屋市の日本ガイシスポーツプラザで開かれました。中二以下のカデット、小六以下のホープス、小四以下のカブの各部男女（いずれもシングル）に、全国から千四百五十五人の子供たちが参加しました。開会式では愛知県卓球協会の竹内敏子副会長が挨拶に立ち、ピンポン外交に尽力した元日本卓球協会会長、元学園理事長の故後藤鉦二先生と、その遺志を継いだ故後藤淳先生の業績を紹介しながら、選手たちに持てる



広い会場で熱戦を繰り広げる子供たち

力を十分に発揮するよう呼び掛けました。卓伸クラブの野村光選手が全力プレーを宣誓し、子供たちは広い会場をいっばいに使って二日間の熱戦を繰り広げました。

愛和学園・後藤淳先生奨学金

平成三十年度愛和学園・後藤淳先生奨学金が二月十二日、本学の学生五人に支給されました。奨学金は、姉妹学園である愛和学園の理事長を務めた故後藤淳先生の篤志に基づき、学業成績が優秀で他の模範となる学生に対して支給されます。八草キャンパスで支給対象となった学生は四人。後藤泰之・愛和学園理事長（名古屋電気学園理事



後藤理事長と歓談する学生たち

長）が「それぞれが目標達成のため役立ててください」と声を掛け、一人ひとりに奨学金を手渡しました。自由ヶ丘キャンパスでも石井成美経営学部長が対象の学生一人に手渡しました。

専門学校から編入学する若者たちを激励

専門学校から編入学する若者たちを激励する。専門学校の編入学を予定する学生たちが一月十八日、飯吉僚校長から激励を受けました。編入学予定者は十二人で、このうち愛知工業

大学に十一人が入ります。編入学先は電気学科電子情報工学専攻、経営学科経営情報システム専攻、情報科学科コンピュータシステム専攻が各三人、電気学科電気工学専攻が二人となっています。他大学へは中部大学に一人が編入学します。激励会では、飯吉僚校長が「新しい環境を楽しむぐらいの気持ちで」と親身に話しかけました。

遠隔地奨学生に通知書

専門学校は昨年十二月二十一日、遠隔地奨学生（後期）に奨学金決定通知書を交付しました。奨学生の選考基準は「実家が県外もしくはは通学に二時間以上経る者で前期の学業成績が各学年の三分の一以内」となり、今回の対象者は二人。三重県桑名市などから通学する対象者に飯吉僚校長が通知書を手渡し、「勉学に一層励んで」と声をかけました。